

問 夢のまちづくりとは

答 人と自然が輝けるまちを

藤原 憲男 議員

問 合併後2年近く経過したが、日を追うにつれて市民の合併に寄せる期待感や活気がさめてきた感がある。旧町それぞれに行き詰まりや危機感を抱き、僅かながらも合併に希望を託したはずだ。

働は得られず、まちづくりは困難になる。全国の中山間のまちは生き残りをかけ、施策やアイデアを必死に競っている。

市長

17年度は旧町の取り組み

原因の一つに、将来の宍粟市の姿を見い出せないところにある。「住んで良かった、住み続けたいまち」と常に提唱されているが、どんな姿のまちを想定されているのか不明確で解りにくい。すべてに秀でる事などは不可能で、「宍粟市はこんなまち」という柱を建て、早く施策を進めべきだ。期待や関心が色あせれば、益々参画と協

政も予想以上に厳しいと感じた為、市民にそんな感しを与えたところもある。今年度は総合計画を策定する中で市民委員の皆さんから多くの提言を頂いている。森と共に生きる宍粟はそれを守る責任もある。温かい人間と自然をつくる中で見い出していく。



問 新庁舎建設予算新年度に計上するな

答 市民の一定の理解は得られている

岡前 治生 議員

問 千種簡易水道配水管布設工事の入札の平均落札率は97%を超えている。このような高値落札が続くのは、談合が行われている疑いがあるのではないかと思うが、市長は調査する考えはないか。

教育長 登下校の安全は保護者でも対応願いたい。

問 波賀中学校力又一部の存続はどうなるのか。

教育長

これまでと変わらな

市長

郵便入札で業者の接触をなくしている。証拠がないので調査しない。

問

波賀郵便局の集配業務の廃止に反対の声を。

市長

郵便局長にサービス低下にならないように言っている。反対の考えはない。

問

遠距離通学児童の安全対策は進んでいるか。

教育長

良好な人間関係やたくましく豊かな心を持つ子どもを育てるのが難しくなっている。



問 いじめは人権問題だ

答 人権教育を再構築していく

西川 省二 議員

問 いじめは人権問題である。いじめは人道上的犯罪であり人権の破壊である。人の個性を認めあうのが人権の第一歩であり、違いがあっても同じ人間なのだという、しっかりと人間感を持つことが大切である。生命の尊さを基本に、お互いの人権を認めあい、助けあい全員が成長していくための人権教育こそ、いじめ問題解決に必要ではないかと考えますが。

びかけている。

問

子育て支援策として、子育て世帯用に市営住宅の供給枠を確保する制度を導入すべきでは。

市長

子育てを支援するため市営住宅の建替をしていきたい。

問

子どもの生活の夜型化や朝の欠食率が進み、学力や体力・気力が低下している。文部科学省は本年より「早寝・早起・朝ごはん国民運動」を展開。市としてもこの運動に取り組むべきと考えるが。

教育長

いじめはまさに人権問題です。教育委員会としては人権教育を再度見直し、カリキュラムを再構築し人権教育を行い、教職員自身の人権感覚を研ぐため研修会参加を呼

教育長

学校を発信源として子どもたちの基本習慣の確立を促していきたい。